

2022年2月4日

各 位

会 社 名 JIG-SAW 株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 山 川 真 考
(コード：3914 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取締役 鈴 木 博 道
(TEL 03-6262-5160)

2021年12月期連結業績の前年同期実績との差異（開示基準を超える増収増益）
に関するお知らせ

2021年12月期（2021年1月1日～2021年12月31日）の当社連結業績につきまして、下記のとおり、前年同期の実績値に比較して開示基準以上の差異（開示基準を超える増収増益）が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 2021年12月期 業績と前年同期実績との差異

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1 株 当 たり 当期純利益
前年同期実績 (A) (2020年12月期)	百万円 2,192	百万円 313	百万円 454	百万円 326	円 49.70
今回発表業績 (B) (2021年12月期)	百万円 2,751	百万円 488	百万円 488	百万円 336	円 50.90
増 減 額 (B-A)	百万円 558	百万円 174	百万円 34	百万円 9	—
増 減 率 (%)	25.5	55.7	7.5	2.9	—

2. 前期実績との差異理由

当連結会計年度における当社グループを取り巻く事業環境は、世界的パンデミックを契機としたデジタル化の進展によって「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）の一体化」が加速し、新たな価値の創出につながるSociety 5.0実現へと向かっています（出典：総務省「令和3年版 情報通信白書」）。

このような環境のなかで当社グループは、保有する基盤コア技術を応用したビジネスデザイン、すなわち、クラウドマネージ、IoT、IIoT分野に加え「生物・細胞」がインターネットとつながるIoE（Everything）、そして人間の能力を拡張させるIoA（Abilities）分野におけるビジネスデザイン・プロジェクトを、国内だけではなくグローバルにおいても着実に進めております。

当社のクラウド・IoT分野全体を包括するデータコントロール事業の売上は、安定した完全ストック型ビジネス（サブスクリプションモデル及びリカーリングモデル）の継続課金売上と一時的なスポット売上で構成されております。当連結会計年度においても、引き続き月額課金案件の受注獲得を推し進め、前年同期と比較して月額課金売上は507,416千円純増しました。これにより、上場以来28四

半期連続で過去最高の月額課金売上のプラス成長となり、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けることなく極めて堅調に推移しております。なお、現在も積極的に先行投資を継続して実施していますが、当連結会計年度における営業利益の増減率は+55.7%、経常利益の増減率は+7.5%となり、前連結会計年度における営業利益の増減率△0.4%、経常利益の増減率△26.5%を大幅に上回りました。

IoT分野では、IoTエンジン「NEQTO」をベースに、あらゆる事業者のエンタープライズレベルのIoTソリューションに大きく寄与するスピーディーかつシンプルなソフトウェアサービスを展開しています。量産ハードウェア向け超極小IoT組み込みソフトウェアの「NEQTO-m」の提供を開始し、米国本土でのIoT基盤設置を完了することで米国顧客へのサービス価値を大幅に高めており、更なる深耕のための取り組みを継続しております。さらに、今後飛躍的に増加していくIoTデータコントロール・クラウドマネージドサービスへの要望に応えるため、国内外トリプル拠点に加え、大型の新コントロールセンター(SCC N44)開設によるサービス体制を強化しました。また、視覚再生プロジェクト「NEW-VISION」においては米国及び日本、台湾で特許を取得し、自動操縦標準機開発プロジェクトにおいては施工現場への実証実験を実施するなど、各プロジェクトを実用化に向けて着実に推進しております。引き続き今後の高い事業成長を実現すべく、将来に向けた先行投資である研究開発費・販売促進費・人件費・グローバル展開のための先行投資を前年同期と比較し約284,000千円大幅に増加させております。

この結果、当連結会計年度の経営成績は、売上高2,751,120千円(前連結会計年度比25.5%増)、営業利益488,374千円(前連結会計年度比55.7%増)、経常利益488,230千円(前連結会計年度比7.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益336,335千円(前連結会計年度比2.9%増)となりました。

以上